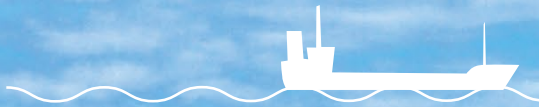


島国の暮らしと内航船をイメージする日。

ふと
海を
想う

7.15 NAIKO

内航船の日



2020



5回目の内航船の日もハッシュタグをつけてお祝いしよう

内航船の日

第5回目の「内航船の日」ありがとう!!

全日本内航船員の会 事務局 松見 準

内航船の存在を知って欲しいと始まった2015年「#内航船の日」。

SNSの登場で洋上の船員と陸の一般の方々とが繋がり、さらには記念日として認定も受け、5年が経とうとしています。おかげさまで「内航船」の認知はかなり広がってきていると感じています。本当にありがたいことです。

5年前は、twitterに船員を見つけることさえ珍しい状況で、内航船を応援してくれる一般の方々と一緒に、船員一人ひとりも「もっと内航船の存在に気がついてほしい」「こんなに重要な仕事をしている内航船」とアピールしていたことを覚えています。

最近では次第にSNS上の船員も代替わりして「内航船の日なんて言うけど、俺たち休日でもないよ」などと日常気ままなツイートでグチる人も出てきました。多くの陸の方からの温かい関心に包まれ、SNSを利用する船員も年々増え、一定の存在感もでてきたこともあり、船員はかつてよりは社会的孤立を感じることもない幸せの中にいます。やっと普通になってきたとも思います。(感謝はずっと忘れてはならないのですが)

始まりの2015年、船員の側には、その4年前の2011年1月の「カボタージュ規制見直し」のニュースに揺れた心情が残存していたように思います。この「カボタージュ規制見直し」は政府(当時)の行政刷新会議の規制改革分科会の「中間とりまとめ」で正式に決定されたもので、その中身は内航海運の航路を、コストの安い外国人船員を配乗させた外航船での事業を可能にする、つまり、規制を撤廃して「内航海運産業」と「日本人船員」の不要を宣言するものでした。しかし結局は、3月の閣議決定を前に東日本大震災が起こり、後に規制見直しは見送りとなりました。この背景には、震災時の原発事故によって一部の外航船に日本抜港の動きが出たことで、オール日本人船員の内航海運の必要性が見直された状況がありました。

震災直後には、SNS上(当時はmixi)で内航船員から「自分たちにも被災地に何か出来ないのか!」という声があふれ、「今、内航海運が存在感を示せなければ」という責任感の意思が内航総連にも届けられました。当時、すでに内航総連でもテンテコ舞いの状況で、被災直後から復興までの間、内航海運は大きな活躍を果たしました。

そして4年後。記念日「内航船の日」が一般の陸の方から贈られたタイミングは、日本の内航海運にとって絶妙な幸運であったと思います。

その後も内航船は、西日本豪雨など緊急時にその実力を発揮してきました。第5回の記念日となる2020年は、新型コロナウイルスによる緊急事態にあります。もちろん、内航船は今も日本の安定物流を支えています。

今年の「内航船の日」記念手ぬぐいは、そんな頼れる内航船の勇姿を真っ正面から描きました。どんな困難も乗り越えて真っ直ぐ駆けつける内航船を、そのままお届けします。

とても残念なことに、今年は毎年開催してきた「海から届ける写真展@大黒湯」を中止としました。陸の応援者の皆さんに、またお願いをしなければなりません。「7月15日は#内航船の日」。今年もtwitterでハッシュタグ「#内航船の日」の発信で洋上の内航船団を応援して下さい。

船員が目指している先は、いつだって「陸」です。片思いが多いと思っています。陸から離れて乗船勤務する船員は、いつでも陸の方からの応援を求めています。



「海から届ける写真展@大黒湯」より